

## 「湘南オープンウオータースイミング 2009」3 キロの部出場

2009年8月29日（七里ヶ浜高校前～江ノ島東浜）

三枝樹 真

2009・8/4 大会前の一仕事

今日も一日大工仕事に明け暮れた力まかせの一日だった。

蒸し暑く身体に厳しい一日。キリストが語る「神が私たちに試練を下さった一日」というのは、こんな日の事だろうか。ポカリスエットと共に過ごす一日。

押し入れを打ち破り、天袋も取っ払い、更にその向こうにある廊下との壁も打ち抜きワンルームに変身させる。

これを一人で完成まで突き進む。初めての事なので順番に壊しながら考え更に前進、又前進である。

完成までに与えられた日数は一週間。

壁を取り払われた部屋は広い、すごい。窮屈に膝を曲げ、背中を丸めて息を凝らして潜んでいた風が、突然突風となって襲いかかり、すべてが吹き飛ばされて青く大きな空に舞い上がっていった感じか。

ついでだから今ある天井も取り払い、めいっばい天井を高くした。ウオー立派だ！

さて次は床貼り、下地を貼った後、大理石を敷き込む。ゴージャスである。石を切る作業というのは思いの外大変、切り込んだ粉で全身これ真っ白である。床が出来ると次は壁塗り。漆喰で塗り固めただけじゃ一物足りないので、アンティークな感じを出すために、ず～と昔壁紙が貼ってあったかのような感覚で立派な壁紙の切れ端を埋め込む、古めかしさを演出しながら工事は進む。苦しくもあるが、楽しい。スポーツも同じか。

「湘南オープンウオータースイミング大会 2009」がだんだん近づいて来た。

家の改造作業に時間がかかり、もう2週間練習から遠ざかっている

今年の夏は天候が不順だ。雨が多く気温も低い。

皆既日食の朝。泳ぎ終わって海から出たら急に寒さが身にこたえた。珍しい日に泳いだものだ。題して「皆既日食の時は寒いぞ」。

7月半ばから仕事の諸事情もあり朝早くトレーニングを始める事にしたのだが、海は荒れているし、朝早くは腰が痛い、昼間もやっぱり腰が痛いし、夜も決し

て良くはない。身体が運動するのをいやがっているし「朝は眠い！」。

しかし 6 時前に起きて、いやがる身体を引きずりながら自転車をのろのろこぎ海に向かう。まるで漁師のようだ。

波にうち戻されながらも沖へ向かって泳ぐ。そんな気持ちなので 500 メートルも進むうち岸に戻れるだろうか不安になってくる、大きな鮫がひょこり現れ、何やってんだこんな時間に寝ぼけてんじゃないの、泳ぎに気持ちが入ってないよと言いながらお尻をパッキリ。びっくりして急いで岸に戻ろうとするけどなかなか近づけない。という夢を見る。

ちょっぴり冷たい海では心細いし。寒い。

波が高いと目の前にあるはずの岸もよく見えなくなるし、間違っって沖に流されているんじゃないのか、などと弱気な自分が現れる。気持ちが萎えてくると悪い方へと思考回路は進んでいって、やがてショウトしてぷつつん。

そもそも私は 3 キロも泳げるのだろうか。エントリーするのをやめればよかった。ウォーターマンではなく、完全にブルーマンである。

私の手に水かきはいつになったら生えてくるのだろうか。えらが出てきたらもうこっちのものなのだが。

腰が痛いので愚痴を聞いてもらうために兼子整骨院に向かう。

兼子院長はフルマラソンで好記録を目指し日々練習をしているアスリートである。何時行っても院長はすこぶる元気である。

患者はみんなヨレヨレなのに院長一人元気。狭い院内に響き渡る大声で話題を提供している。患者の中にも口だけ元気者もまれにいるけれど、全く太刀打ちできない。

更に院長の性格が明るすぎる。はっはっはっと大声で笑う院長に落ち込む事はあるのだろうか？

この底抜けに明るい院長を徹底的に弱らせることが出来るか？一つ考えてみた。真っ暗で、狭くて天井の高い密室に閉じこめ、まずい食事を一週間ほど与えるなんてのはどうだ。普通人だったらすぐにギブアップです。

ところが兼子院長ならこんな逆境に置かれても元気にストレッチなどをして、与えられた時間の中で足踏み運動やら、スクワットの繰り返しが延々と続くにちがいない。スクワットのやりすぎでこりが出たところを、自らの得意の指圧でしっかりほぐし、身体はいつでも 42.195 キロ走れる万全の態勢。

元気はつらつ。わっはっはである。

全く信じられない明るい人物として国に推薦したい。

密室体験から解放されれば、すぐに元どおりになるばかりか、こうした経験がより強い精神と肉体を育み、更に強い兼子院長となって「湘南国際マラソン大会」では記録を大幅に更新するに違いない

そんなどうでもいい想像をして治療を受けていると、兼子院長の指圧が腰にぐいぐい効いてくる。これで治療費が300円は安い！

やがてマッサージは終わり、「はい。どうですか！いいかんじですか！頑張ってください！」やっとなら返って家路につく。

すばらしい！

2009年8月29日（土）晴れ

「湘南オープンウォータースイミング大会2009」

3キロの部（七里ヶ浜高校前から江ノ島東浜海水浴場ゴール）

あっという間に江ノ島の灯台が目の前に迫り、最後の黄色のブイが迫ってきた。この黄色のブイをクリアーすると遠くの海水浴場の辺りにゴールとおぼしき横断幕がかすかに見えた。ピッチを上げてゴールを目指すが周りに人がいない。ブイをクリアーするとき3人がブイをつかみ合うようにぶつかりながらクリアーしたのに二人は左に大きくそれて遠ざかっていく。自分の方向が違うのかなと心配は膨らむ一方だが泳ぎを止めるわけにはいかない。

右手に大会関係者らしきライフガードが接近してきたので、大声でゴールはどこだ！叫ぶ。方向は違ってないようだ。大きく左手を泳いで競い合っている二人はいったいどこへ向かっているのだ。他人の事がやけに気になるがゴールが近いのでピッチを更に上げる。

ピッチを上げたとたん、突然今まで味わった事のない左ふくらはぎがピンと張って痙攣を始めている。バタ足ができない。ゴールを目の前にして、このまま両足が止まってしまったらどうしよう。ゆっくりペースを落とす。

ゴールがもう目の前々まで迫ってきている。フルスピードにしたいが足が心配でピッチが上げられない。ゴールまであとわずか、水は濁っていて深さが分からないが岸は近いぞ、ここらは江ノ島の海水浴場になっているようだから意外に浅瀬になっているかもしれない。足がつくかもしれない。おもむろに立ち上

がってみれば、何だ？水は腰の辺りじゃないか。急いで走ろう！そして砂浜に駆け上がる。びっこなんぞをひいてられない。

左手から私の前をふらつく足で、前に出ようとしている選手がいる。

負けじと砂浜を全速力で駆け抜け一気に抜き去る。ギャラリーの大きな拍手に迎えられてゴールに入る。ゴールが過ぎてもお走る。確実に抜いたなと思われるところで、ゆっくりびっこを引きながら前に進む。いささか疲れたな。

係員に銀色メダル（完泳賞）を首にかけてもらう。ずいぶん立派なメダルだ。でも金メダルじゃない。

さっき抜いた選手とは、浜の競り合いで1秒の大差を付けた。どうでも良いようなところが一番おもしろいところだ。勝った！と言う感じがたまらない。誇らしげに左足を引きずりながら預けた荷物を受け取り、そのまま江ノ島駅の飯屋に入り牛丼を食べる。

江ノ島駅に止めておいた自転車で海岸沿い遊歩道を通り、ふらつきながらも全速力で帰路につく。メダルを首にかけ、両腕に4044の囚人番号をつけ満足げに自転車で家に向かう。

やっと終わった。

長い間このレースに気持ちを囚われたものだ。

試合から数日後暑い夏はまだ続く。次の戦いは11月「湘南国際マラソン」10キロが控えている。思えばもう2ヶ月半全く走っていない。

真夏の太陽が照りつける中、毎日泳いでいる私の横を汗を流し修行僧のように走る老若男女がいる。

ランニングという悪霊に取り憑かれた善良な市民が猛暑の中で走っている。この暑いのにどこがおもしろくて走っているのだろうか？

それに引きかえ、海の上は素晴らしい。波に乗ったり、波の下になったり、波のリズムに合わせ泳いでいく。手を伸ばし、水を捉えればズズーと身体が前に進み、反対の手がさらに遠くの水を求めて探り寄せる。ザザー、スズーと身体が水の上をすべる。水をたぐり寄せるときには肘を立てる。その手をお腹の下から腰へと運ぶ、水泳の教科書にはそのようにしなさいと書いてある。

腰から抜いた手は再び前方の水に向かってまっすぐに伸ばす。ザザーと水の中を身体が滑る

3キロのレースを終えたばかりの身体は絶好調。

沖に向かって気持ちよく15分ばかり進み、90度右に曲がって10分ほど泳ぐ。戻りのコースに入りややピッチを上げながら、海岸沿いのマンションで位置を確認しながら滑るように泳ぎ岸に向かう。サーファーが横目で見えれば、残り50メートルあるや無しやで砂浜へ到着。

遊歩道の脇にある出発地点のデッキに向かう。砂浜を登ったところでデッキに座っていた男性が拍手を送っている。

「ありがとうございます」と挨拶を交わす。

「いやー心配しました。まっすぐ沖へ泳いでいったな〜と思って見ていたら、水しぶきも姿も全く見えなくなってしまった。いつまで見てても姿が見えないので溺れたのではないかと心配になり始めました。

どうしたものかと考えながら、脱いでいかれた靴の下に遺書のようなものはないかと探しましたが何もなし。30〜40分は過ぎているし、やはりおぼれたのではないかと、事故のような気がするけどどうしよう。何時まで待ってから救助を呼ぼうかと、ずーと考えていました。心配しました。

「でも岸に戻ってきた身体を見た時、この人は普通の人じゃないんだと思いましたよ」。

「この人は普通の人ではないんだ」に隠された言葉のなんと素晴らしい響き！  
たびたび言われた「あんたは普通じゃない！狂っている！」とは全然違う響き。

「あんたは異常」こんな言葉もたびたび耳にしたが、今回の「この人は普通の人ではないんだ」とはひと味もふた味も違う絶品の一言である。

中国の満願全席をさりげなくお昼にどうぞとってお姉さん方が続々お皿を運んでくる感じに似ている。おいおい食べきれないからやめてくれよと照れながら一応言ってみる。

旅先で喉が渴いたので一杯のお水をいただきに立ち寄った家で、まお上がりなさいよと言われ、三日三晩、鯛やヒラメの海の幸、山の幸がてくてこもりのおもてなしで大あわて。そんな感じか。

毎回手紙のやりとりしている似非アスリートの小林氏が自分の通っているトレーニングジムに掲げられた川柳「今年こそ失禁直してバス旅行」とはえらい違

いである。

気分最高。「湘南オープンウォータースイミング 2009」を征服して本当に良かった。記録も素晴らしいだろうなー早く公式記録の連絡が来ないかと待ち遠しいばかりだった。

大会が終わって。公式記録が郵便で届いた。

記録・1時間 18分 36秒（自己予想タイム 1時間～1時間 5分）

あまりの遅さにびっくり。

しかし、先の男性の一言で二倍楽しめた「湘南オープンウォータースイミング大会」であった。

しかしどこに原因が？